



さくらちょうしょう

桜町小だより

「緑と笑顔がいっぱい桜町小」

児童数 336名 令和6年9月2日(月)



「物語の創造」

校長 小川 哲

地震、台風等で被害に遭われた方々、地域の方々にお見舞い申し上げます。暑さに加えて、突然の豪雨や落雷などにより、予定を変更せざるをえなかった方たちも多かったのではないかと思います。2学期がスタートしますが、状況を適切に把握しながら、教育活動を進めてまいります。

さて、年度当初に今年度の学校経営の方針を「物語の創造～学びや取組をつなげる～」と掲げました。子供たちが10年後、20年後の未来を生きていくためには、単に各教科等で身に付けた知識や技能を発揮するだけではなかなか難しく、それらを組み合わせたり、つなげたりして、アイデアや考えをよりよいものにしていたり、新たなアイデアや考えを生み出したりして、形にしていく必要があるでしょう。そう考えると、学校教育の中で、算数で学んだグラフや表を活用して、他教科の中で資料や調査結果としてまとめるなど、教科横断的な学びや合科的な学びが効果的です。1学期は、国語で学習したインタビューの仕方を発揮して、地域やお店の方、他学年の先生へのインタビューから生活科や社会科、総合的な学習の時間に生かす学びが見られました。さくら学級では、自立活動や生活単元学習で栽培した野菜や制作したアクセサリーやしおりを保護者の方に販売して、そのお金で買い物実習、栽培した野菜と併せて調理実習を行い、みんなで楽しく会食するところまでつなげました。これらのよさは、それぞれの学習活動の目的や対象者を子供たちが意識できることです。これらの目的意識や相手意識は、主体的な学びにつながります。2学期も各教科等で学んだことを活用したり、発揮したりする場を授業の中で計画的、意図的に確保していくよう、授業を進めてまいります。

また、「物語」は子供たちそれぞれにもあります。登校一つとっても、朝から元気よく登校する子もいれば、何となく気持ちが乗らなかったり、朝からおうちの人に注意されたりして（それが悪いということではありません）出てくる子もいます。そういったそれぞれの「物語」をもって学校という場で、学級や学年で「物語」を創っていきます。学びの過程では、一人では解決できない課題を仲間と協働して解決していくことも積み重ねていきます。それらも、彼らの未来には必要な力です。「物語」と言えば、大なり小なり「ドラマ」があります。夏休み中もパリオリンピックや高校野球などなど、スポーツを中心にたくさんの「ドラマ」がありました。大谷翔平選手の40本塁打、40盗塁を達成したサヨナラ逆転満塁ホームランはまさに「ドラマ」でした。高いスキルや積み重ねてきた努力に裏打ちされたものであることは間違いないのですが、ああいった「ドラマ」の背景には、メンタルというか自分を上手くもっていく「考え方」がある気がします。自らプラス思考にもっていく「考え方」や「心の持ちよう」、「気持ちの切り替え方」も自分、学級、学年の「物語」を紡いでいく過程で身に付けていってほしいと思います。

まだまだ暑い中での2学期のスタートとなります。2学期も桜町小学校の子供たちが自分たちなりのすてきな「物語」を創っていけるよう、教職員がチームとしてそれぞれの立場で教育活動の充実に尽力してまいります。保護者、地域の皆様、桜町小の「物語の創造」にご理解とご協力をお願いいたします。